

備中地域 まちづくり通信

まちの出来事・情報などお届けします

第3号

2019(R1)12月発行



鋤崎八幡神社の秋祭り

(岡山県重要無形民俗文化財)

境内を勇壮かつ華やかに跳ぶ渡り拍子
(11/3平川)



「一布賀ぼっけまつり」

農作物の収穫がほぼ終わった11月10日、今年で11回目となった一布賀ぼっけまつりが布賀コミュニティ広場で開催されました。会場内のテントでは、牛肉の串焼き、焼き鳥、うどん、そば、野菜のほか瀬戸内の新鮮な魚も安価で販売。また、ステージでは子供たちのダンスや備中太鼓、歌謡ショーなどが繰り広げられ、地域内外の多くの人たちが布賀高原の秋を満喫しました。



▲10/14 ふるさと祭り

台風の影響で一日順延となりましたが、4,000人の人出で賑わいました。

一市の幹部も出席し、意見交換が行われた懇談会の様子



災害復旧 市道関係は5割が完成、農地は7割が未発注

令和元年度まちづくり懇談会

地域の将来やまちづくりに対する提案課題について市長と意見を交換する今年度のまちづくり懇談会が11月15日、夕方6時30分から地域局会議室で開かれ、委員など関係者13名が出席し、防災や有害鳥獣対策などについて話し合いました。

まず、近藤市長から災害復旧・復興の取り組み状況と水道料金改定についてなど市政報告があり、その後、共通テーマとして「防災体制づくり」、地域テーマとして「有害鳥獣対策」と「公共交通」について、1時間30分にわたり話し合いました。

主な質問、意見、回答は次のとおりです。

防災対策

地域に合った体制づくりを
委員…一定量の雨が降ると交通規制がかかる県道新見川上線の防災(改良)工事を急ピッチで進めて欲しい
市…災害復旧工事完成に合わせ、今年度中に連続雨量120ミリを150ミリに、時間雨量30ミリを35ミリに規制を災害前の規制値に戻す予定であると県から聞いている。いざれにしても安全に通ることができる道路整備



▲災害復旧と拡幅工事が進む新見川上線(用瀬付近)

をしなければならず、県への要望など引き続き努力をしていく。
委員…災害復旧工事の進捗状況と今後予定は？
市…市道関係では、市全体で5割が完成(箇所数ベース)しているが、未発注も2割ある。備中町内は37件あり、すべて発注している。また、農地・農業用施設関係では、7割が発注できていない状況。備中町では50件中18件の契約となっており、残りを今年度中に発注することとしている。
委員…市は自主防災組織を作るように

進めているが、備中町においてはコミュニティ組織がその役割も担っている地域も多い。新たに作らなくてもいいのではないのか？
市…名称にこだわらなければならないと思っ

ている。町内会単位とか地域の実情に合った組織でもいい。ただ、そうした活動に対して市としても支援制度を設けているので、そのためにはある程度の制約(組織の形)もあるということ。いざれにしても有識者や防災関係者等による「地域防災力向上委員会」を立ち上げるので一緒に考えていきましょう。

有害鳥獣対策

有害鳥獣対策

イノシシは年間2千頭捕獲 対策に森林環境税の活用を研究
委員…市では2年前から有害鳥獣対策をより強力に取り組み、その成果も出ているものと思われ、市民の中で依然困っている声が多い。イノシシの捕獲実績や狩猟免許取得者の状況について教えて欲しい
市…年によって多少はあるが、イノシシは市全体で年間約2千頭捕獲している。うち備中町は約250頭。備中の場合、最近ではカラスの捕獲が急激に増えている(平成29・17羽→平成30・127羽)。
捕獲や駆除をお願いしている猟友会員は、平成30年度市全体で229人。うち備中は35人で、そのうち銃猟は17人、わな猟30人(重複者あり)。また、65歳以上の占める割合は市全体で7割と会員の高齢化が進んでいる。
委員…狩猟免許取得のための補助制度なども設けられているが、銃所持者を含めさらなる猟友会員の確保策についてどう考えているのか？
市…銃所持するためには、免許取得以外にも多額の経費がかかることは承知している。全国の事例なども参考に支援のあり方については、検討したい。
委員…農地と山林の間に緩衝帯を設けることで進入を防ぐ効果があると言われているが、市においてモデル的に実証できないか？



委員…市では2年前から有害鳥獣対策をより強力に取り組み、その成果も出ているものと思われ、市民の中で依然困っている声が多い。

市…緩衝帯を整備することは効果があるのでないかと思っている。また、令和6年度から森林環境税が導入されるのでこれらの制度と合わせて研究していきたい。
委員…イノシシは、農地だけでなく道路の法面や路肩を壊している。これらについても修繕をお願いしたい。
市…道路の環境整備など地域住民のご協力をいただいているところで、道路への影響が大きい場合は業者に対応してもらおう。

持続可能な交通体系の構築

公共交通対策

公共交通網形成計画の策定
委員…移動手段のための乗合タクシー、社協の移送サービス、生活福祉バスの利用状況はどうなっているのか？また、利用者は減少傾向にあると思うが、どのように分析しているのか？
市…備中地域に限らず、生活福祉バスや乗合タクシーの利用者は年々減少している。これは、人口減少はもとより、もともと運転免許を持たない高齢者が減少したことと運転免許保有率(高齢者になって保有率が低い)が高齢者が減るとも関係している。市内の運転免許保有者は、2万人(平成30年12月現在)、そのうち65歳以上の保有者は6千700人余り。さらに市の65歳以上の人口に対する保有率は55.6%と全国平均を4%程度上回っている。

次に社協が行っている移送サービスの備中町の年間延べ利用者数は、過去5年間概ね600人前後で推移している。この事業は利用対象者が限定(高齢者、透析・難病者など)されるため今後もそれほど変わらないものと考えている。
委員…生活福祉バスの運行が不効率となつていて、乗合タクシーについてももう少し利便性を図って欲しいなど要望もあることから、タクシー利用に対する個人的な補助制度は考えられないか？
市…公共交通対策に2億6千万円かかっている。公共交通の方針・方向性を定めた「高梁市地域公共交通網形成計画」があり、本年度、次期計画策定を進めており、アンケートの実施、交通事業者や医療等の関係機関と協議を行っている。計画の中で本市に見合った持続可能な公共交通体系を構築していきたいと考えている。また、タクシー営業にしても様々な規制があり、過疎地域において実情に合わせて規制を緩和してもらいたいことも必要だと思っている。

